
妖魔と君の戒律

紅葉貴久弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖魔と君の戒律

【Nコード】

N7703U

【作者名】

紅葉貴久弥

【あらすじ】

暇だったので投稿したため。クオリティーが低いです。

これは一人の少女と一匹の妖魔の短編です

君はなぜ、俺に怯えない？君は一体なんなんだ。君は妖魔の俺に何を求めるんだ？

『ただ、少し傍にいて欲しいだけ……』

それだけか？なら、俺は君の傍に永遠にしよう。

『迷惑じゃ……』

いいんだ。死にかけの俺を救ってくれた君を永遠に護ってやりたいんだ。

『じゃあ、お願い』

わかった。君と俺は契約を交わそう。まずは三つの戒律を理解してくれ、一つは『君の体のどこかに契約を入れる』

『ウン』

二つ目は『その契約で君は俺を一生行使する』

『いいの…』

いいんだ。三つ目は『絶対に俺以外のモノに殺されてはならない』

『ふふ、私を独り占めにしたいの？』

そうかもな。俺は君を独り占めにしたい。そんな俺でもいいか？

『もちろん。一人ぼっちよりはいいよ』

すぐに行く。だから、悲しい顔をしないでくれ。俺はそんな君を見たくない。だから、待っていてくれ。

それだけ言っと、私は彼に包まれた。

.....。

「んっ、夢？」

私は辺りを見るが誰もいない。いつも通りの一人ぼっちだ。

「いい夢だったのにな」

私は嘆息しながら、学校に行く準備をする。でも、あれは何なんだったのだろうか？すごく優しい包まれ方だった。

いつも通りの道を走る。それはいつもの光景。でも、いつもと違うことがあった。自転車がパンクした。

「あ、あ、あ、あ、あー」

地面に倒れてしまう。そう思い、目を閉じる。でも、痛みはやって来なかった。

「まったく、危ない人だな。君は」

「えっ？」

私は夢で見た男の人、黒い羽の生えた妖魔に抱きよせられていた。

「さあ行こうか？我が姫よ」

彼は翼をはためかせ飛び立っていく。私は彼に全てを委ねた。もう、一人ぼっちじゃない。それだけで十分だった。

私たちは空へ消えていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7703u/>

妖魔と君の戒律

2011年10月9日06時14分発行